

『伊勢物語』「東下り」(文法)

昔、男Aありけり。その男、身をえうなきものに思ひなして、京にはあら①じ、東の方に住む②べき国求めにとて行き③けり。もとより友とBする人、ひとりふたりして行きけり。道知れ④る人もなくて、惑ひ行きけり。三河の国八橋といふ所に至り⑤ぬ。そこを八橋といひけるは、水行く河の蜘蛛手⑥なれば、橋を八つ渡せるによりてなむ、八橋といひける。その沢のほとりの木の陰に下りCみて、乾飯食ひけり。その沢にかきつばたいとおもしろく咲き⑦たり。それを見て、ある人のいはく、「かきつばたといふ五文字を句の上にD据ゑて、旅の心をよめ。」と言ひければ、よめ⑧る。

唐衣きつつなれ⑨に ⑩しつましあればはるるきぬる旅をしぞ思ふ
とよめりければ、みな人、乾飯の上に涙落として、ほとび⑪にけり。

行き行きて、駿河の国に至りぬ。宇津の山に至りて、わが入ら⑫むとする道は、いと暗う細きに、蔦・楓は茂り、もの心細く、すずろなるめを見ることと思ふに、修行者会ひたり。「かかる道は、いかでかいまする。」と言ふを見れば、見⑬し人なりけり。京に、その人の御もとにとて、文書きてつく。

駿河なる宇津の山べのうつつにも夢にも人にあは⑭ぬなりけり

富士の山を見れば、五月のつごもりに、雪いと白う降れ⑮り。

時知ら⑯ぬ山は富士の嶺いっとてか鹿の子まだらに雪の降る⑰らむ

その山は、ここにたとへば、比叡の山を二十ばかり重ね上げ⑱たら ⑲むほどして、なりは塩尻のやうになむありける。

なほ行き行きて、武蔵の国と下つ総の国との中に、いと大きな河あり。それをすみだ河といふ。その河のほとりに群れあて、思ひやれば、限りなく遠くもE来にけるかなとわび合へ⑳るに、渡し守、「はや舟に乗れ。日も暮れぬ。」と言ふに、乗りて渡ら㉑むとするに、みな人ものわびしくて、京に思ふ人なき㉒にしもあらず。さる折しも、白き鳥の嘴と脚と赤き、鳴の大ききなる、水の上に遊びつつ、魚を食ふ。京には見え㉓ぬ鳥なれば、みな人見知らず。渡し守に問ひければ、「これなむ都鳥。」と言ふを聞きて、

名にし負はばいざこと問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと

とよめりければ、舟こぞりて泣きにけり。

問一 傍線部A～Eの動詞の活用之行・種類と活用形を答えなさい。(省略形でよい)

| | |
|---|---|
| D | A |
| | |
| E | B |
| | |
| | C |
| | |

問二 傍線部①～⑬の助動詞の意味と活用形を答えなさい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ⑩ | ⑦ | ④ | ① |
| | | | |
| ⑪ | ⑧ | ⑤ | ② |
| | | | |
| ⑫ | ⑨ | ⑥ | ③ |
| | | | |

| | | | |
|----|----|----|----|
| ②② | ①⑨ | ①⑥ | ①③ |
| | | | |
| | | | |
| ②③ | ②① | ①⑦ | ①④ |
| | | | |
| | | | |
| | ②① | ①⑧ | ①⑤ |
| | | | |
| | | | |

昔、男Aありけり。その男、身をえうなきものに思ひなして、京にはあら①じ、東の方に住む②べき国求めにとて行き③けり。もとより友とBする人、ひとりふたりして行きけり。道知れ④る人もなくて、惑ひ行きけり。三河の国八橋といふ所に至り⑤ぬ。そこを八橋といひけるは、水行く河の蜘蛛手⑥なれば、橋を八つ渡せるによりてなむ、八橋といひける。その沢のほとりの木の陰に下りCみて、乾飯食ひけり。その沢にかきつばたいとおもしろく咲き⑦たり。それを見て、ある人のいはく、「かきつばたといふ五文字を句の上にD据ゑて、旅の心をよめ。」と言ひければ、よめ⑧る。

唐衣きつつなれ⑨に。⑩しつましあればはるるきぬる旅をしぞ思ふとよめりければ、みな人、乾飯の上に涙落として、ほとび⑪にけり。

行き行きて、駿河の国に至りぬ。宇津の山に至りて、わが入ら⑫むとする道は、いと暗う細きに、蔦・楓は茂り、もの心細く、すずるなるめを見ることと思ふに、修行者会ひたり。「かかる道は、いかでかいまする。」と言ふを見れば、見⑬し人なりけり。京に、その人の御もとにとて、文書きてつく。

駿河なる宇津の山べのうつつにも夢にも人にあは⑭ぬなりけり

富士の山を見れば、五月のつごもりに、雪いと白う降れ⑮り。

時知ら⑯ぬ山は富士の嶺いっとてか鹿の子まだらに雪の降る⑰らむ

その山は、ここにたとへば、比叡の山を二十ばかり重ね上げ⑱たら。⑲むほどして、なりは塩尻のやうになむありける。

なほ行き行きて、武蔵の国と下つ総の国との中に、いと大きな河あり。それをすみだ河といふ。その河のほとりに群れあて、思ひやれば、限りなく遠くもE来にけるかなとわび合へ⑳るに、渡し守、「はや舟に乗れ。日も暮れぬ。」と言ふに、乗りて渡ら㉑むとするに、みな人ものわびしくて、京に思ふ人なき㉒にしもあらず。さる折しも、白き鳥の嘴と脚と赤き、鳴の大ききなる、水の上に遊びつつ、魚を食ふ。京には見え㉓ぬ鳥なれば、みな人見知らず。渡し守に問ひければ、「これなむ都鳥。」と言ふを聞きて、

名にし負はばいざこと問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと

とよめりければ、舟こぞりて泣きにけり。

問一 傍線部A～Eの動詞の活用之行・種類と活用形を答えなさい。(省略形でよい)

| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| D | A | E | C |
| ワ下二 | ラ変 | カ変 | ワ上一 |
| 連用形 | 連用形 | 連用形 | 連用形 |

問二 傍線部①～⑬の助動詞の意味と活用形を答えなさい。

| | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ⑩ | ⑦ | ④ | ① | ⑪ | ⑧ | ⑤ | ② | ⑫ | ⑨ | ⑥ | ③ |
| 過去 | 存続 | 存続 | 打消意志 | 完了 | 完了 | 完了 | 適当 | 意志 | 完了 | 断定 | 過去 |
| 連体形 | 終止形 | 連体形 | 終止形 | 連用形 | 連体形 | 終止形 | 連体形 | 終止形 | 連用形 | 已然形 | 終止形 |

| | | | |
|-----|-----|------|-----|
| ②② | ①⑨ | ①⑥ | ①③ |
| 断定 | 婉曲 | 打消 | 過去 |
| 連用形 | 連体形 | 連体形 | 連体形 |
| ②③ | ②⑦ | ①⑦ | ①④ |
| 打消 | 存続 | 原因推量 | 打消 |
| 連体形 | 連体形 | 連体形 | 連体形 |
| | ②① | ①⑧ | ①⑤ |
| | 意志 | 完了 | 存続 |
| | 終止形 | 未然形 | 終止形 |